北海道ＭＫＶ会現地研修会が盛会

９月20日富良野市で開く

約50名の販売店社員等が熱心に研修

三菱ケミカルアグリドリーム㈱は、北海道ＭＫＶ会現地研修会を９月20日に富良野市において開催し、ニュー富良野ホテルでの座学研修と、市内でイチゴ、メロン、ミニトマトを栽培している生産者３カ所の現地研修を行った。同社は昨年に８年耐久ＰＯフィルムの「スーパーダイヤスター」、そして今年に入ってから８年耐久散乱光フィルム「美サンランスーパーダイヤスター」や、「美サンランアグリスター」のほか、キュウリ水耕システム「かっぱランド」等々、新製品が目白押しで販売店の関心もひじょうに高く、50名近くの参加者が集まり盛会となった。

道内の販売店など50名近くが参加して行われた北海道ＭＫＶ会研修会

北海道ＭＫＶ会は三菱ケミカルアグリドリームが特別会員及び事務局として活動を行っており、現在正会員は㈱太学農園など道内の販売店19社、そしてタキイ種苗㈱や㈱サカタのタネなどの幹事会員４社が加入しており、総会や研修会などを実施している。

研修会は最初に概況報告並びに新製品を中心とした商品説明が行われた。北海道オフィスの岩瀬裕雅氏の司会で進められ、牧村顕オフィス長が「本日は多くの皆様にご参加いただきまして誠にありがとうございます。今シーズンは美サンランスーパーダイヤスターなど高品質な商品が発売となりました。すでに予約等も始まっているかと思いますが、ぜひ生産者の皆様にお薦めしていただければと思います」と挨拶し、引き続き概況報告を行った。

挨拶する北海道オフィス長
牧村　顕氏

それによれば北海道における農ビの販売実績は業界全体で前年比ラン(㎞)86・8％（全国92・4％）で、台風があったにもかかわらず減少している。一方、農ビの販売状況（加工品出荷比率）は、美サンランダイヤスター系が平成26年以降10～15％の範囲で推移。同じくイースター系は５～８％程度で、今後は新製品の美サンランアグリスターの拡販をしていきたいと語り、このほか高機能内張りカーテンの「快適空乾」や、生分解性マルチのエリア別実績の報告があった。

続いて岩瀬氏が商品説明を行う。今年の新製品で８年耐久の「美サンランスーパーダイヤスター」、アグリスターの微散乱光タイプ「美サンランアグリスター」、特殊フィルター内蔵潅水チューブ「エバフロー近傍」、キュウリＮＦＴ・散水毛管水耕栽培システム「かっぱランド」、そのほか既存商品で北海道での普及を目指す散乱光農ビ「ＳＵＮＲＡＮ」や、「快適空乾」等の説明があった。

農ＰＯの普及進む

今後は20％目標に頑張る

ホテルでの研修後はバスにて現地へ移動。はじめに富良野市北大沼の小野貴弘氏のイチゴハウスを見学。９棟のハウスで「さがほのか」を作っており、６月後半から育苗して現在は定植してから10日～２週間ほど経過したところ。

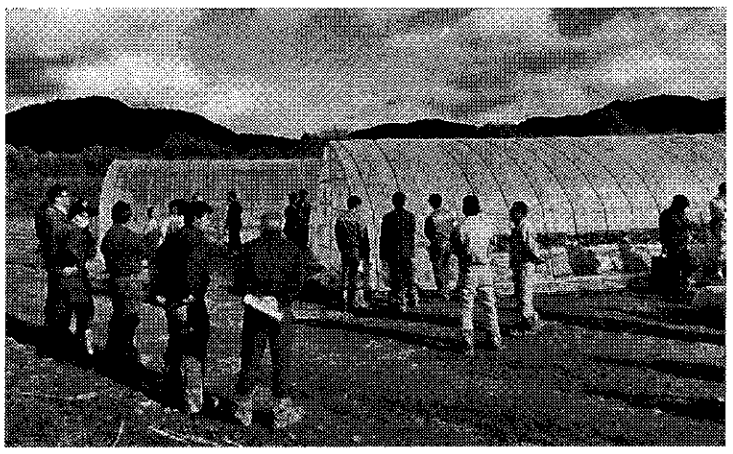
フィルムはダイヤスターを展張し、内張りはイースターを２重張り、そしてカーテンは快適空乾を使用しているが、そのうち１棟の外張りに美サンランスーパーダイヤスターを試験展張した。今夏は富良野も35℃近くまで気温が上昇した日が５日ほどあったが、微散乱光による効果で急激な温度変化を和らげて葉焼けが防止でき、苗も順調に育つとともに定植後の状況も良好とのこと。収穫が始まる冬から春にかけてどういう生育をしていくかも見守っていきたいと述べた。

続いて富良野市上五区の亀渕貴史氏のメロンハウスに向かった。亀渕氏はキングメルテー会副会長を務めているが、今年から上富良野、中富良野、富良野、山部の生産組織が統合して「富良野メロン生産組合」が設立され、その初代組合長に就任した。メロン以外にもタマネギなど多くの作物作りで多忙を極めているが、一行を快く迎え入れてくれた。

メロンは17棟で作っており、現在は７月７日に定植した２期作目の終盤を迎えたところで品種はＲ１１３を栽培している。今年は一部のハウスに無滴農ＰＯフィルムのアグリスターを展張して栽培した。展張して気づいたことは保温力が高いことで、一部の他社製品を展張したハウスよりもつる伸びが早かったそうだ。

期待大きい三菱の新商品

美サンランアグリスターなど説明



ダイヤスターを展張しているファーム亀渕のメロンハウスを見学している様子

3名の圃場を見学

卓越した経営に一同感服

今年の北海道メロンは天候に恵まれて糖度や食味が優れるとともに収量も多くなり、久しぶりに良い年となったということで亀渕氏の表情も明るかったのが印象的だった。

現地研修最後はミニトマトを作っている富良野市下五区の岡本農園に。園主の岡本哲夫氏は29棟（１４５㌃）のハウスでミニトマト「キャロル10」を栽培しているが、５月10日から６月５日までの間に３回にわけて定植することが良かった点だと語った。

現在71歳の岡本氏は、パートに栽培を任せて自分は労務管理などの仕事をしているが、なんとか頑張って農業を続けて次世代に繋げていきたいと語っている。

今回訪問した３名の生産者は三菱ケミカルアグリドリームのフィルム等を使って優れた栽培を行うとともに、労務管理や販売に至るまで卓越した農業経営をしており、参考になる話を数多く聞くことが出来てひじょうに有意義な研修会であった。

（３名の詳細な内容については次号より掲載します）

令和２年の気象予測完成

農事気象学会

農事気象学会は令和２年（２０２０年）の農事気象予測と作物生育予測をまとめ、このほど会員に洩れなく送付した。

この予測は故斎藤善三郎先生の理論に基づいて同会の幹部により完成したもので、これが実によく当たると好評のものである。

それによれば、来年は庚子（かのえね）歳で七赤金星に当たる。庚子は金の性で１年を通じて冷え込みが激しく、冷害、寒風となるとある。

また、旧暦の元旦が立春の10日前の１月25日で、春の訪れは早い予測である。気象学会が重要視している８年周期説は７型で、春の訪れは早い方だが、冷夏が見込まれ、遠日点は７月７日である。

会員はこの予測を大事にして、よく研究してほしいと事務局長の片山氏は言っている。

この気象予測と作物生育予測は気象学会員だけに配布しているもので、無断で印刷または配布することは厳禁になっているので、大事に取り扱ってほしい。

また、会員には年末までには31年度の「寒試し」の記入野帳が送られるので、会員には今年も是非、実行するように要望している。

×　×

なお、故斎藤善三郎先生が残した名言であるが、「農業は人為１割、地４割、天５割り」とある。

農事気象予測は、的中するか否かではなく、如何に活用するかであるという名言を残している。会員はこれを座右の銘にして農業に勤しんでもらいたい。